

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0176000081		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぼぼ新館		
所在地	三笠市高美町444番地 (電話) 01267-2-7740		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年7月23日

【情報提供票より】 (20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 29 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤7人, 非常勤4人, 常勤換算6.65人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円
			暖房費5,000 円
敷金	有(64,000 円)・無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	4名	要介護2	2名
要介護3	0名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 79歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立三笠総合病院、中塚歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内はバリアフリーに配慮され、リビングの窓越しに四季折々の木々や自然が楽しめる快適で、清潔感ある家庭的な印象のホームです。施設長、管理者を中心に全職員の良好な協働で構築された基本理念の実現や、サービスの質の向上に熱心であり、会議などの充実、研修での力量アップが、個別性の高いきめ細かな支援に結びついています。職員は一人ひとりの現状に暖かな関心を注ぎ、利用者のペースでゆったりと安心感ある落ち着いた日常生活が伺えます。ターミナルケアの実践、ピクニックやドライブなど柔軟な外出支援、地元住民や子供達、家族の参加を得ての「緑日」「秋祭り」など、利用者の想いに添った支援に積極的に取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題の一つである地域密着型サービスの理念については、時間を掛け全職員間で協議し、さらに理念を具現化した対応方針の作成に至っており、ホーム一体となって改善に取り組んでいます。ほかの課題についても改善または改善に向けて、段階を経ながら取り組みを継続しています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対しては全職員での取り組みを実施し、前回評価結果を踏まえ、現状のケアサービスのあり方に気づきを得て、サービスの質の確保、実践に繋げる努力をされています。外部の視点をホームの運営に活かそうとする積極的な姿勢が伺えます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は地域住民の協力を得て、2ヵ月ごとに8回開催されています。利用者状況、職員の異動状況、行事報告や今後の取り組みなど、ホームの実情を報告し、運営の理解に努めてきていますが、会議メンバーとして不可欠な行政職員の出席を、より積極的に働きかけ、また、ホームに係わりのあるメンバーの幅広い参集を進めて、多様な意見をホームの運営に反映することを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>通信や金銭管理報告、利用者の暮らしぶりや医療、健康面また担当職員からのコメントなど、家族の安心に配慮したきめ細かな情報発信をしています。来訪しやすく、話しやすい雰囲気作りを努めてきており、家族との関係性は深まりをみせてますが、意見、要望などのより率直な表出を助けるためにも、多方面からの収集策に取り組むことを期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民にホームの存在が浸透してきています。徐々にはありますが地域のリサイクル、清掃活動に協力し、地域イベントなどにも参加しています。生け花ボランティアの来訪や地域住民にホーム行事などへの参加の呼び掛けをして、地域との連携、交流の機会に努めてきています。利用者が、特に楽しみにしている地域の子供達との交流を、さらに促進させていく方向にあります。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念について職員全体で時間をかけて検討し、地域密着型サービスの役割に根ざした3項目の基本理念を掲げ、見直しを実施しています。日常ケアの実践に向けての具体的な方針を作成し、ホームのケアサービスの明確な方向性を示しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には理念の説明を行ない、理解を促しています。全職員で構築した理念とその実践に向けての方針は職員間での統一が図られており、日々のケアサービスについては職員会議などで理念に結びつけて確認され、サービスの質の向上に努力されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接地の法人系列のホームともども、地域内にホームの存在感の浸透が見受けられます。地域行事やリサイクル、清掃活動に協力しています。またホーム行事である「縁日」「秋祭り」などに地元住民、学童保育の子供達、中学生のブラスバンドなどに積極的に参加を呼びかけ、双方向の交流に努めています。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価に対しては全職員での取り組みを実施し、前回評価結果を踏まえ、現状のケアサービスのあり方に気づきを得て、サービスの質の確保、実践につなげる努力がされています。外部の視点をホームの運営に活かそうとする積極的な姿勢も伺えます。		

三笠市 グループホームたんぽぽ新館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1度、近隣の市議会議員、地元住民や家族、利用者の代表を構成員として開催されています。利用者状況、職員の異動状況、行事報告などホームの実情を報告し、意見をいただいておりますが、懸案事項などへの活発な意見交換までには至っていません。	○	会議には、行政職員などの担当者の参加を積極的に働きかけることを望みます。また協力を依頼している公共機関や学童保育など、ホームに係わりあるメンバーの幅広い参集を進め、多様な意見やアイデアをホームの運営に活かす取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの隣接地に市の分室があり、行事实施の際やホームの運営に関しての良好な協力関係が築かれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況変化時には速やかな報告がされています。毎月の金銭管理報告、「たんぽぽ通信」での情報提供のほか、利用者の暮らしぶりや、医療、健康面の状況報告、担当職員からのコメントなどの内容で一人ひとりに報告書を送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部、外部の苦情申し立て窓口の明示、案内を実施しています。家族の訪問の際には職員は話しやすい雰囲気に関心掛け、意見、要望などは検討し、運営に反映させています。意見箱の設置もありますが、利用がなく全体として苦情、不満の表出は多くありません。	○	関係性の深まりは、ともすれば率直な意見や苦情などが言い難い状況が生じることを考慮し、より積極的に家族の方々からの意見収集策の検討を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動もありますが、隣接しているホームとは日常的な交流や職員の交代実務などに取り組んでおり、職員の交代による利用者との馴染みの関係に配慮しています。新職員が早期に利用者との関係が作れるよう、十分な情報の引継ぎを行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成への認識が高く、職員の段階に応じた外部研修に順次受講できる体制が整っています。研修報告書の回覧、会議で意見の発表を行ない、職員全体での知見の共有が図られています。内部研修として法人内で研修委員会を立ち上げ、月1回の持ち回り研修会を開催し、職員の研鑽に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空知管内のグループホーム協議会の会議、研修会に参加し、情報交換などに努めていますが、ホームの立ち上げ時以降は、ほかのホームとの実質的な交流は行なわれていません。	○	現在のネットワーク関係を促進させ、職員間レベルで、ほかの業者と相互交流などの機会を捉えて、ともにサービスの質の向上に繋げられる取り組みに期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学を実施し、体験入居などの交流も考慮しています。利用者や家族の意向などにより早急な利用対応の場合もありますが、家族と相談しながら、入居後は、24時間生活変化記録で状態把握や丁寧な見守りを実施し、利用者一人ひとりが、場の雰囲気に徐々に馴染んでいけるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者との心のふれあいを大切にし、利用者から労いの言葉や感謝の気持ちを伝えられる時も多くあり、ともに過ごす者として共感し、励まし支えあう信頼関係が構築されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりに関心を持って接し、常に言葉を掛けて意向の把握に努めています。言語での表出に支障がある人に対しても、日常生活での把握や職員個々の気づきを出し合い、利用者の想いを汲み取り、利用者本位の希望する暮らしの検討を行なっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの生活状況記録や日常ケア場面での情報を持ち寄り、計画作成担当者を中心にサービス担当者会議で意見交換を実施しています。利用者、家族の意向、看護職員や訪問看護師、医師のアドバイスも計画に盛り込み、利用者一人ひとりの個別性の高い介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標は6ヵ月を設定し、期間ごとの見直しのほか、短期目標は状態変化に応じてその都度確認を実施しています。介護計画と照合する記録方式を導入し、日常生活の状況や変化の兆しの把握、分析を行ない、利用者の現状に即した介護計画の見直しに取り組んでいます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への帰宅や医療機関の通院送迎など、その時々々の利用者、家族の状況や要望に応じて柔軟な支援に努めています。4月より医療連携体制加算の指定を受け、利用者の24時間健康管理に配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医の受診、訪問診療が実施され、家族の同意を得て相談、協力しながら支援しています。職員に看護師を配置し、週2回の訪問看護体制、協力医療機関との密接な連携や日常の健康管理体制を整えています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに看取りケアに取り組んでおり、家族の方々の意向を踏まえ、その都度繰り返し協議し、医療機関、家族との方針の共有を密接に図りながら、利用者の意向に添った支援に繋げてきています。ホームとして重度化、終末期における対応の指針を示し、すべての家族の方々に対して説明、同意を得る方向で取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の記録の保管、管理の徹底を図っています。ミーティング時では利用者に対する対応の確認を行ない、その人らしく尊厳ある生活が保たれるようプライドやプライバシーに配慮されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのその人らしい生活を大切に捉えています。1日の生活の流れはありますが、食事のペースや入浴の希望、その日の気分での役割ごとの参加など、利用者の状況に配慮しながら、できるだけ利用者の希望に添う個別の支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は買物から後片付けまでの食事の一連の作業の中で、それぞれが無理なく楽しみながらできることに携わっています。職員の食事支援もさりげなく介助しながら、楽しい会話の中でゆっくりとした食事支援になっています。また外食や居酒屋パーティーなど食事を楽しめる場面の工夫をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在夜間の入浴希望はなく、午後の時間帯で利用者の体調や状況を見極めつつ、毎日の入浴でも可能な体制を取っています。入浴に抵抗感を持たれる人も多く、利用者に合わせての声かけや場面の工夫などを行ない、最低でも週に2回の入浴支援を実施しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	包丁研ぎや山菜調理、洗濯やカラオケなど得意分野での力を発揮できるよう、また一人ひとりの状況変化に合わせて現状の有する力量を見極め、様々な場面を考慮し、今の希望、現状のできることで張りあいや喜びに繋がる暮らしの支援に努めています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は日常的な支援であり、天気の良い時は近郊へのドライブや外出を臨機応変に取り入れています。お花見や果物狩り、地域のイベント参加、またホーム庭での外気浴や裏口を開放しての気分転換など、利用者一人ひとりの状態や思いを受けて柔軟に対応しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解しており、日中は開放しています。職員の見守りの徹底や呼び鈴の設置、また家族の方々と相談を行ないながら、利用者の自由で安全な暮らしを守ることに取り組んでいます。		

三笠市 グループホームたんぽぽ新館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、様々な時間帯を想定した避難訓練を実施し、連絡網の確認や近隣施設に避難場所の依頼、隣接ホームとの緊急時の相互協力の確認をしています。さらに地域住民の協力体制の拡大や職員会議で様々な災害時の対応について、検討の方向にあります。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を個別に記録し、職員が情報を共有しています。一人ひとりの好みやバランスを考えた献立を作成し、カロリーの把握についてはホーム内で学習し、日常の栄養管理に活かしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーに配慮があり、建物内の中心部にある居間、台所からは調理の匂いが漂い、生け花や装飾品、写真が飾られ、生活感、季節感ある空間になっています。玄関横の眺めの良い談話室や居間には畳スペースも確保され、ゆったりとくつろげる居場所の工夫もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は明るく使いやすい設計であり、タンスや仏壇、写真や家族からのプレゼント品など大切にしているもの、馴染みの物品が持ち込まれ、利用者が安心して居心地よく過ごせる環境スペースに配慮されています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。